

赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会（山形県）

活動地域

皆さん、こんにちは。赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会です。どうぞよろしくお願い致します。これより本協議会の取り組み、つながりと広がりで作る安全・安心について紹介させていただきます。山形県南陽市は人口約3万4,000人。その中にある赤湯地区は5月現在、世帯数約3,900戸、人口約1万1,000人の町です。顔の形をしました山形県の、にっこりえくぼの位置にございます。

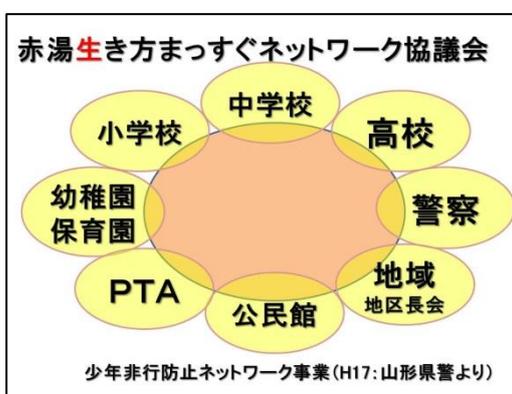


開湯920年を迎える赤湯温泉、ブドウやサクランボなどの果樹、桜やスカイパークといった美しい環境など豊かな自然に囲まれた町でございます。最近では、市役所の陸上部が駅伝で活躍したり、行列のできるラーメン屋さんが有名になったり、それらがこれまでの地域財産とマッチし、観光で訪れるお客様も増えております。

団体の概要

この赤湯地区で進められている赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会は、平成17年度に山形県警の少年非行防止ネットワーク事業の指定を受けたことが起源となっております。このネットワーク事業は、地区内の関係機関・団体が一体となって地域の子供たちの健全育成を図る目的で設立されました。

その後9年間、活動を見直したり、発展させたりしながら各機関・団体がそれぞれの持っている教育機能を連携、連動、一体化させて、独自のネットワークを構築してまいりました。イメージとしては地域全体の緩やかな連合体です。危険箇所などの改善に積極的に動いてくださる地区長会や防犯協会、警察を始め、民生・児童委員、保護司会、青少年育成委員や補導委員、交通安全協会などの各種団体、そして幼保・小中高の教育施設とその保護者、PTAが緩やかな連合体として結びついているというものです。このことから防犯や安全・安心なまちづくりに対する地域住民の自発的な取り組みが生まれ、さらに地域おこしや人材育成など、具体的な取組につながっています。



活動の概要

本協議会の取組をまとめてみますと、三つのつながりと一つの大きな広がりというキーワードで表されます。子供と地域がつながり、家庭と地域がつながり、そして地域相互がつながっていく。それが犯罪のない防犯の町づくり、ひいては地域愛などの思いに広がっていくのです。

一つ目のつながりの、子供と地域のつながりについてお話をしたいと思います。ネットワーク協議会では毎年秋に、子供・保護者・教職員・地域の皆様が集まり、まっすぐミーティングと題して防犯や町づくりに関する意見交換を行っています。写真は、昨年度のまっすぐミーティングの写真です。犯罪や非行に進んでしまう、地域の子供たちの表現力や忍耐力がなかったり、自己中心的で無関心といった傾向とその打開方法を話し合っています。その際、子供の考えを十分に生かすことができるよう、子供たちの心の中にある倒したい悪役キャラクターと、倒すための武器というテーマを設定し、大人も含めた皆で真面目に意見交換をしました。これは、気力がないという傾向について話し合ったグループのまとめです。ここで出てきたキャラクターはダラケモン。なんかすごいですね。どの子供たちの心の中にも住んでいそうなキャラクターです。このダラケモンを撃退するメリハリという武器を持った、メリハリリンリンが登場します。つまり、だらけに打ち克つものはメリハリのある生活だというわけです。

このように一つの答えを探し出すというよりは、さまざまな世代の考えを聞き合う。特に、子供たちが大人と一緒にテーマで話し合うことに大きな意義があると感じています。それは、この時間、大人は子供の考えをしっかりと受けとめてくれていたと、子供たちが感じるからです。その上で意識や環境の違いが明らかになり、それを互いに理解しながら、

キーワードは、「つながり」と「広がり」

- **子どもと地域の“つながり”**
- **家庭と地域の“つながり”**
- **地域相互の“つながり”**



- **犯罪のない街づくり・地域愛**
.....**思いの“広がり”**



まっすぐミーティング...子どもと地域の“つながり”



意見交換を行っています。話し合いの後には、クリスマスの時期でしたので、参加者の防犯や安全への思いを地域に発信するワークショップなども取り入れ、和やかな雰囲気の中で、各世代が会話を楽しみながら、地域の安全を願う活動ができました。



二つ目のキーワード、家庭と地域のつながりです。本協議会が主催し、PTAが中心となって地域懇談会を開催しています。幼稚園・保育園・小学校・中学校の子供を持つ保護者と地区の各種団体の皆様が、子育てなどのテーマごとの分科会で意見交換を行っています。昔ですと、場を設定しなくても地区内の至るところで自然とできていた光景かもしれませんが、子育てのベテランの地域の皆様から、アドバイスを頂く場面が数多く見受けられました。ここではコミュニケーションの基本となるあいさつから大人のマナーに至るまで、多岐にわたる意見が出されており、地域の方からは学校の頑張りを応援・激励していただいたり、またゲームや情報化といった昨今課題となることについて話が及んだり、話題は尽きません。この活動もその時々で視

点を変えながら、9年間継続して実施することができています。

家庭と地域のつながりとしても一つ。PTAでは親子のふれあいを大切にしようという取り組みを各施設で行っております。PTAの広報誌などを通じて防犯の意識、規範意識の礎となる家庭生活でのふれあいを親世代へ働きかけています。また赤湯の宝である温泉を活用したふれあい入浴を、全ての教育施設のPTAで実施致しました。本当に気持ちよさそうな写真なんです、赤湯財産区のご協力を頂いて、家族で銭湯に入れる券を家庭数配布いたしました。「じいちゃん、父ちゃんで行った」、「初めて入った」、「熱かった、42度ぐらいある熱いお湯なんて」、「また行ってみたい」などの声があり、その後数回銭湯に足を運んだという声もあったり、大変好評な取組になっています。

これら本協議会の取組を継続していく中で大きな課題として、青年層をどう取り組むかという点が出されました。つまり、関わっているのは子供と親世代、じいちゃんばあちゃん世代で、この取組には20代といった若者の力が必要なのではないか、という声が上がったのです。そこで2年前から、地域で活躍している青年グループの皆さんと連携した取組を進めています。これが三つ目の地域相互のつながりです。



この写真は、マスクを被った青年がいるわけですが、青年のアイデアで南陽市の事業として採用されたご当地ヒーロー、南陽宣隊アルカディオンなどの活動で町づくりに積極的に参加している青年グループと中学生がアイデアを出し合い、地域に掲示する防犯ポスターを作成すべく話し合っているところです。

子供たちのあふれ出るアイデアをその場で集約してすぐに撮影開始。実際このアルカディオンも、中に入っているのは4人とも中学生です。防犯ポスター作製という目的で集まったのですが、中学生は青年グループの皆さんとの会話の中で、地域にかける熱い思い、郷土愛までも感じ取っている様子で、一緒にできる喜びを実感しているようでした。この青いマスクを被っている中学生は生徒会長ですが、毎朝交通安全ありがとう運動を小学校の前の横断歩道で行っています。

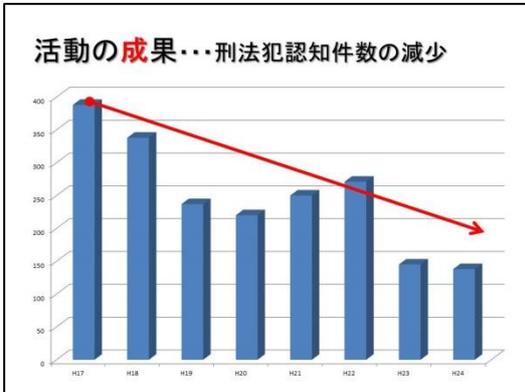
子供たちが犯罪に巻き込まれる確率の多い登下校の時間、まず朝、中学生の呼び掛ける安全・安心が地区内に広まります。生徒会長の言葉にもありましたが、彼は小学生のときから地域で活躍する中学生を見ているのです。彼のように、小学生は中学生になったら、と考えます。このつながりも、ネットワークで連携・連動している取組の成果と考えます。下校時は公民館が主体となり、地域の方々約200名が登録している地域見守り活動が行われています。ここでも、子供たちと地域の方々があいさつを通してつながります。赤湯地区ではここ数年、不審者に関する事案がありません。あいさつを通じた地域のつながりが、犯罪を抑止していることを実感しています



活動の効果と今後の課題

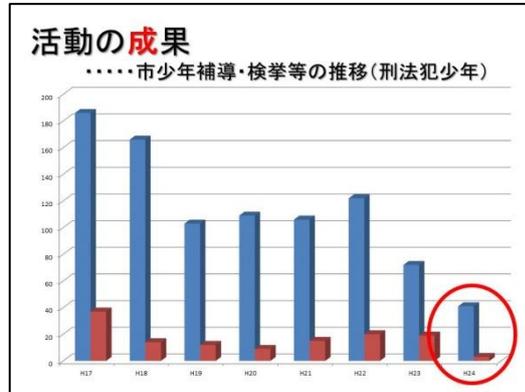
これらの取組を通じた地区内の防犯意識の高揚、子供たちの健全育成について数字の面からも成果となって表れております。この数字から、南陽署管内における刑法犯の認知件数の減少が一目で分かります。また少年補導に関して言えばさらに顕著なデータが出てお

り、平成 24 年度は少年補導件数が 41 件、うち刑法犯少年は 3 名です。本協議会が発足して以来、年々減少しています。地域全体で児童・生徒を見守る。地域の方々から暖かく見守られているという、このつながっている意識が防犯意識を高揚させ、定着化しているのではないかなと思っています。



本協議会の取組は、ネットワーク通信として地域に回覧しています。安全・安心なまち、豊かなまちづくりにかける思いを、子供からお年寄りまで共有できていること、頑張る大人の姿を子供たちが見ていることが大きな成果と言えます。

今後も犯罪のない社会づくりを目指し、地域を挙げて、防犯につながる子供たちの郷土愛・地域愛を醸成し続けてまいります。ご清聴ありがとうございました



『おぼご』から『としより』まで

- ・ネットワーク通信の発行 “思い”の共有

社会情勢・家庭環境の変化
中学生を取り巻く環境の変容

質疑応答

●質問 発表にありましたように中学生が多岐にわたり活動しておりますが、中学生が活動に参加する契機は何でしょうか。

○回答 協議会と同時に、中学校で生徒たちが全校で話し合いを行って、『我ら赤中 生き方まっすぐ宣言』を出しました。その宣言文の中で、犯罪のないまちづくり、非行をゼロにしていこうということと、自分たちからまちづくりに関わっていこうと表明しました。それを元にして、社会参画活動という形で地域の祭りや運動会に役員として参加する、そういう流れが続きました。そうした中、小学生の登校の列に車が突っ込んで小学生が亡くなってしまふ事故が起きたのですが、それを受けて、当時の生徒会長と交通安全ありがとう運動を始め、またそれを全校でやろうじゃないかということで、今に受け継がれています。7年目の活動となっています。